


<p>〔氏名〕 八島 明朗 宮城県仙台市出身</p>	
<p>〔現職〕 法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科 兼任教員 専修大学商学部准教授</p>	
<p>〔学生へのメッセージ〕</p> <p>私は消費者行動論を中心としたマーケティングを大学院より研究しております。主なテーマは消費者のリレーションシップマーケティングにおけるブランドスイッチング行動です。</p> <p>マーケティングや消費者行動論は学際的な分野であると同時に、理論と実務（事例）が深く結びついた分野です。そのため、理論を聞いて事例を、事例を聞いて理論を思い浮かべられるような学びが重要だと考えています。</p> <p>授業では理論的な枠組みに加えて事例も紹介しながら、受講生のみなさん自身が理論と実務のつながりを意識して学んでいただければと思います。</p>	
<p>〔専門分野〕 マーケティング・消費者行動論</p>	
<p>〔担当科目〕 マーケティング論、消費者行動論</p>	
<p>〔主な経歴〕</p> <p><学歴></p> <p>2005年 横浜国立大学経営学部会計・情報学科卒業</p> <p>2007年 横浜国立大学大学院国際社会科学研究所会計・経営システム専攻博士前期課程修了</p> <p>2013年 早稲田大学大学院商学研究科博士後期課程満期退学</p> <p><職歴></p> <p>2010年 早稲田大学商学大学院助手</p> <p>2013年 専修大学商学部専任講師</p> <p>2015年 専修大学商学部准教授</p> <p>2021年 Visiting Academic of Trinity College Dublin</p> <p>2008年 早稲田大学本庄高等学院非常勤講師（経営学入門）</p> <p>2010年 流通経済大学経済学部非常勤講師（消費者行動論）</p> <p>2018年 駒澤大学グローバルメディアスタディーズ学部非常勤講師（マーケティングリサーチ）</p>	
<p>〔主な研究業績/社会的活動〕</p> <p><著書></p> <p>『情報化社会におけるマーケティング—消費者行動とロジスティックにおけるデータ活用』（共著・第二章担当），2014年3月，白桃書房。</p> <p>『海岸林維持管理システムの構築—持続可能な社会資本としてのアプローチ』（共著・第三章担当），2020年3月，白桃書房。</p>	

『持続可能な地域社会の形成に向けた自治体・企業・組織・市民の関わりとつながり—SDGs 未来都市に注目して—』(共著・第三章第三節、第五章担当), 2025年3月, 白桃書房.

<論文>

「マーケティング・エクセレンスをもとめて 第69回株式会社メニコン」(共著), 『季刊マーケティングジャーナル』27巻2号 p. 75-p. 89, 2007年3月.

「マーケティングにおけるプロスペクト理論のレビュー」『季刊マーケティングジャーナル』28巻1号 p. 101-p. 113, 2008年11月.

「スイッチング・コスト削減によるプロモーション効果—インセンティブ増加との比較—」『早稲田商学』430号 p. 63-p. 85, 2012年3月.

「現代アートの島「直島」 ~非日常と経験価値のインタラクション~」『季刊マーケティングジャーナル』31巻4号 p. 110-p. 124), 2012年3月.

「スイッチング・バリアがプロモーション効果に与える影響 ~携帯電話キャリアによる検討~」『プロモーション・マーケティング研究』平成24年度論文集 p. 21-39, 2013年9月.

「解釈レベル理論を用いた消費者行動研究の系譜と課題」(共著)『消費者行動研究』20巻2号 p. 65-94, 2014年3月.

「選好の逆転: 解釈レベル理論に割引の概念を組み込んだモデルによる分析」(共著)『行動経済学』8巻 p. 1-12, 2015年3月.

「[0円]のスイッチング・コストがブランド・スイッチに与える影響」『専修商学論集』104号 p. 87-94, 2017年1月.

「家庭向け電力小売市場におけるブランドスイッチ要因の検証 : ロイヤルティモデルによる検討」『専修大学商学研究所報』50巻5号, p. 1-20, 2019年3月.

「契約中ブランドと乗り換え候補ブランドに対する態度を考慮したブランドスイッチ要因の検証」『専修商学論集』113号 p. 117-129, 2021年9月.

「家庭向け電気サービスの選好における発電方法の影響」『専修商学論集』118号, p. 181-192, 2024年1月.

[所属学会・団体]

日本消費者行動研究学会、日本マーケティングサイエンス学会

[資格・表彰]

早稲田大学創立125周年「次世代への先見」懸賞論文 優秀賞